

氏 名：清田 明美

学 位 の 種 類：博士(看護学)

学 位 記 番 号：博看護第2号

学位授与の要件：学位規則第4条第1項該当

学位論文題目：在宅で暮らす要介護後期高齢者と多職種支援者による「高齢者の生活上の困難に対処する体験」の共有を促す支援モデルの開発

研究指導教員：谷本 真理子

研 究 副 指 導 教 員：李 廷秀

論文審査委員：(主査)廣島 麻揚 (副査)坂本 すが
(委員)佐々木 美奈子 (委員)大塚 真理子

論文審査結果の要旨

清田明美氏の博士論文は4名の審査委員によって、書面による審査及び口頭試問により厳正に審査された。

本報は、在宅で暮らす要介護後期高齢者の生活上の困難に対処する体験を、多職種の支援者が高齢者と共有することにより、「高齢者が自律的な生活を目指す」ことを支援するモデルを開発している。

まず第1段階として、先行研究である要介護後期高齢者の生活上の困難と対処に関する調査の結果と文献検討をもとに、要介護後期高齢者と多職種支援者が、高齢者の生活上の困難に対処する体験（以下、「高齢者の体験」）の共有を可能にするための仮支援モデルを作成している。

次に博士論文の主論として、5名の後期高齢者と4職種の支援者グループ（21名）に仮支援モデルを示し、「高齢者の体験」の共有を可能にするための支援モデルに必要な構成要素を検討している。後期高齢者は個別インタビューを、多職種支援者は同職種同士のフォーカス・グループ・インタビューを行い、質的記述的に分析している。そして、これら両者の結果を統合し、新たな支援モデルの提案をしている。具体的には、仮支援モデルの構成要素「生活上の困難」「対処」「すり合わせ」「高齢者の目指す生活」に、新たに「対話」と「体験共有の促進」「体験共有の阻害」の要素を加え、要介護後期高齢者と多職種支援者へのリフレクション機能を持ち、両者の相互理解を促すことを可能にする『要介護後期高齢者と多職種支援者が「高齢者の体験」の共有を促す支援モデル』を提案している。

本報は、清田氏の臨床経験に基づく問題意識から研究目的が設定され、研究過程においても多職種支援および高齢者（対象者）の意向に沿った支援、支援者と高齢者（対象者）の相互理解が重視されている。この点において独創性があると判断される。さらに研究成果である支援モデルは臨床上、支援者にとっても、対象者である高齢者にとっても大変有益なものとなっており、意義深く「博士論文として認定できる」と判断する。

令和4年2月18日

論文審査委員（主査） 廣島 麻揚